

全天候型の新しいサル舎を建設中

施設担当 主席主査 土佐 友二

チンパンジー展示場向かいにあったサル舎は、ワオキツネザルやエリマキキツネザル、アビシニアコロブス、ブラッサグエノンなど中型のサルを展示していました。この施設は、1973年に大森山動物園が現在の場所へ移転したときに建てられた最も古い施設の一つで、築46年が経過し老朽化が進んでいました。

大森山動物園では、施設の整備計画に基づき観覧者、動物、飼育員の安全確保とサル本来の生態が観察できる施設となるよう、新しいサル舎を建設することにしました。

従来のサル舎は屋外からの観察だけでしたが、新サル舎は屋内に休憩コーナーやトイレも完備し、雨の日や冬期間も屋内でも休憩しながら観覧できる全天候型の施設になります(写真1)。ワオキツネザルの屋外展示場ではサルの環境への適応を見なが



写真1:屋内休憩スペース



写真2:観覧者も入れる屋外展示場

ら、観覧者がワオキツネザルと同じ空間で観察できるような施設を目指します(写真2)。

また、新サル舎の特徴として、屋内、屋外、屋上などさまざまな視点からサルの行動を観察できるほか、となりのチンパンジー展示場と屋上を橋でつなげ、来園者の行き来ができるようになります(写真3)。

新サル舎の建設工事は、2019年10月から2020年秋までの約1年間の予定です。工事完成後に動物病院などで仮住まいをしているサル達を新居へ移動して環境に慣らした後、2020年度中のオープンを予定しています。

オープン後には、新しい展示場で自由に動き回るサル達をさまざまな角度からご覧いただきたいと思います。

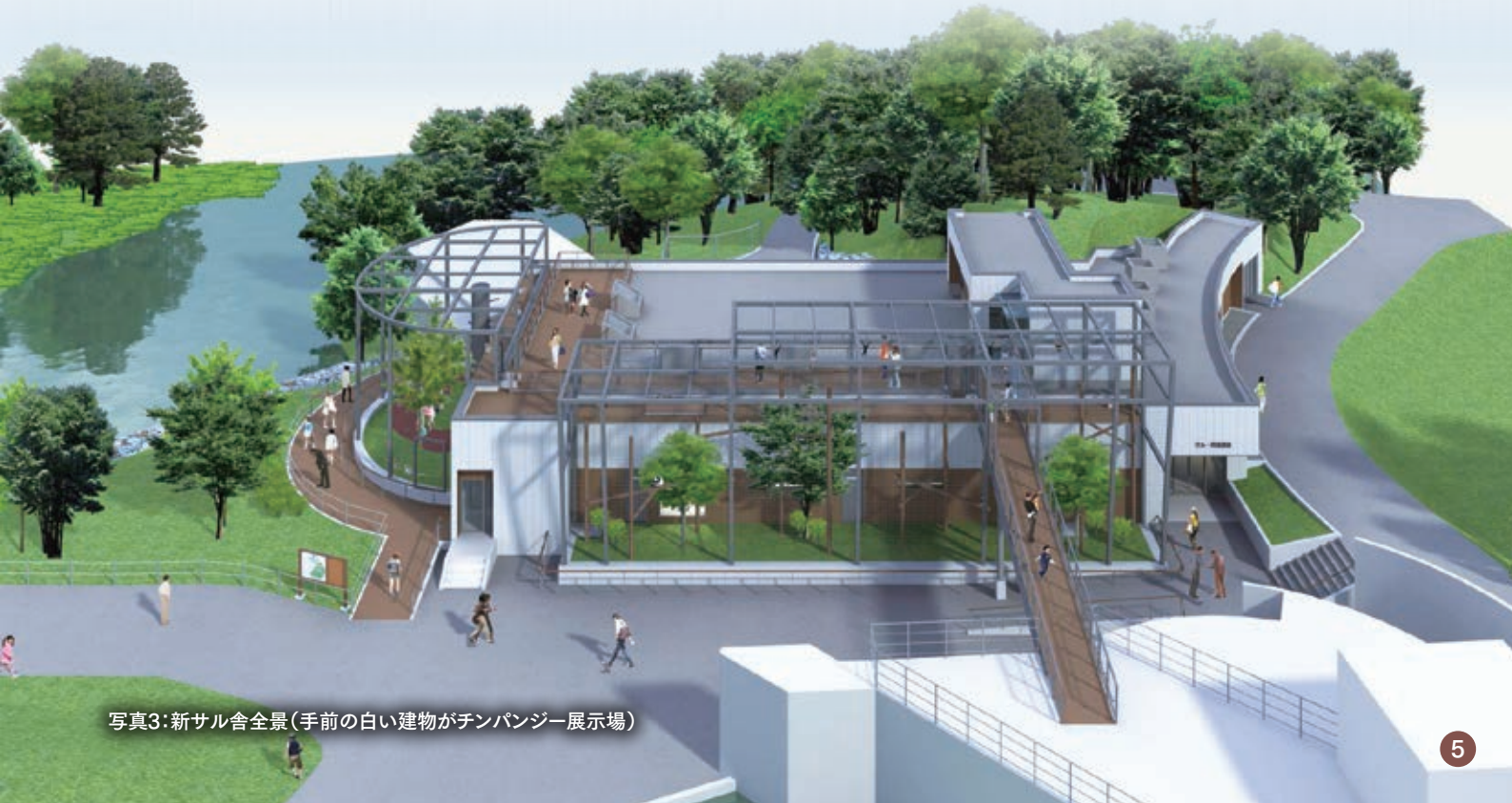


写真3:新サル舎全景(手前の白い建物がチンパンジー展示場)